

「仮の町」の整備の考え方について

本日の論点

- ①「仮の町」(仮称)の意義について、どのように整理するか
- ②「仮の町」(仮称)の整備の在り方について、どのように整理するか
 - 「仮の町」を希望する町民の期待
 - 集中型か、分散型か
 - 「仮の町」の整備の考え方
- ③「仮の町」(仮称)の候補自治体について、どのように整理するか

論点1「仮の町」(仮称)の意義について、どのように整理するか

町民の「仮の町」に対する意向 [住民意向調査の結果]

N=3498
(中高生以外)

「仮の町」を希望する町民 52.9%

「仮の町」に移り住みたい 6.9%
具体化されれば移住を検討 46.0%

帰還の意思が何らかある町民 25.7% [48.5%]

※「条件が整えば戻りたい」、「自宅の補修・再建、
インフラの復旧が終われば、すぐに戻りたい」

帰還の意思がない町民 8.6% [16.2%]

現時点で判断がつかない町民 17.2% [32.5%]

無回答 1.4% [2.6%]

[]内は、仮の町を希望する町民(52.9%)の内訳

「仮の町」を希望しない町民 42.1%

帰還の意思が何らかある町民 11.0% [26.1%]

※「条件が整えば戻りたい」、「自宅の補修・再建、
インフラの復旧が終われば、すぐに戻りたい」

帰還の意思がない町民 21.1% [50.1%]

現時点で判断がつかない町民 9.1% [21.6%]

無回答 0.8% [1.9%]

[]内は、仮の町を希望しない町民(42.1%)の内訳

無回答 5.0%

- 「仮の町」を何らか希望している町民は、半数。
- 「仮の町」を希望する町民は、帰還の意思を何らか示している町民が多いが、帰還の意思がなくとも「仮の町」を希望している町民もいる。

- 「仮の町」は、あくまで居住先の選択肢の一つであるべきではないか
- 「仮の町」は、帰還までの生活拠点でありつつも、帰還しない町民も念頭におくべきではないか

論点1「仮の町」(仮称)の意義について、どのように整理するか

「仮の町」と帰還の関係に関する意見

◇「7000人の復興会議」の意見
◆委員会の意見

- ◇町に帰る前提で仮の町を早く作ってほしい。
- ◇仮の町は、帰還を目指す人だけの場所なのか。
- ◇仮の町は、帰還のためだけの中間地点という所でない。
- ◆「仮の町」ではなく、定住できる町、高齢者が安心して生活できる町を作っていかなければならない。



○「仮の町」は、帰還までの生活・コミュニティの場としつつも、帰還までに長期間を要し、また帰還を希望しない町民もいることから、長期に居住できる良好な生活環境をめざすことはどうか。

「仮の町」とコミュニティの関係に関する意見

- ◇町民が集まり暮らせることによって、コミュニティの再生・維持、歴史伝統文化をつなぐことができる。
- ◆仮の町は単に生活再建の場のみならず、町民のきずな・ネットワークの場としての役割もある。



○「仮の町」は、単に「仮の町」に住む町民のためだけの生活拠点ではなく、「仮の町」に住まない町民も含めた、双葉町民のコミュニティの拠点として考えてはどうか。

受入自治体との関係に関する意見

- ◇受入自治体と共存、調和しながら生活環境を整備する。
- ◆将来的にもぬけの殻になるような町をつくるのではなく、長く住むことができ人が住みたいと思えるような魅力的なまちづくりを目指していくべき。



○「仮の町」は、受入自治体の意向にも配慮して、受入自治体のまちづくりにも貢献した、双葉町民と受入自治体の住民が双方ともメリットが受けられる関係を目指して、魅力的なまちづくりを行うべきではないか。

「仮の町」の名称に関する意見

- ◇「仮」ではすべてが半端になってしまう。戻れるまで本気で住む決意を持たないといけない
- ◆「仮の町」の名称について、帰れない人や帰らない人のために、新生双葉地区という言葉も必要ではないか。



○「仮の町」という名称は、「仮」という言葉を使うのではなく、一般名称としては、生活拠点・コミュニティ拠点の両方の意味を含んだ「双葉町外拠点」として、そのキャッチフレーズとして「新生双葉地区」としてはどうか。

まとめ

〔仮の町の意義〕

○「仮の町」の意義は次のように整理してはどうか。

- ・「仮の町」は、各地に避難している町民が再び集まって居住できる環境を整備することで、町民が安心して生活を再建することができ、町民のコミュニティを維持・発展させるための場である。
- ・「仮の町」は、町民の居住先の選択肢の一つにすぎない。
- ・「仮の町」を、「仮の町」に住む町民だけの生活拠点としてだけでなく、「仮の町」に住まない町民を含めた、町民全体のコミュニティの拠点として位置づける。
- ・「仮の町」は、帰還を希望する町民が多く住むことから、帰還までの生活・コミュニティの場としつつも、帰還までに長期間を要し、また帰還を希望しない町民がいることも踏まえて、「仮の町」の整備は、「仮住まい」の整備ではなく、長期に居住できる良好な生活環境を目指して整備する。
- ・「仮の町」は、受入自治体の意向にも配慮して、受入自治体のまちづくりにも貢献した、双葉町民と受入自治体の住民が双方ともメリットを受けられる関係となれるような、魅力あるまちづくりとする。

〔仮の町の名称〕

○「仮の町」という名称ではなく、生活拠点・コミュニティ拠点の両方の意味を含んだ、「双葉町外拠点」(新生双葉地区)としてはどうか。

論点2「仮の町」(仮称)の整備の在り方について、どのように整理するか

「仮の町」を希望している町民の属性

○「仮の町」を特に希望している町民の多くは高齢者である。

○まずは高齢者が安心して暮らせる住環境が求められるのではないか

年代	全体		「仮の町」に移り住みたい		具体化されれば移住を検討		「仮の町」に住むつもりはない		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全体(中高生以外)	3498	100.0%	242	100.0%	1609	100.0%	1471	100.0%	176	100.0%
15-29歳	290	8.3%	8	3.3%	113	7.0%	155	10.5%	14	8.0%
30-49歳	820	23.4%	30	12.4%	358	22.2%	410	27.9%	22	12.5%
50-69歳	1357	38.8%	72	29.8%	678	42.1%	576	39.2%	31	17.6%
70歳以上	907	25.9%	125	51.7%	419	26.0%	296	20.1%	67	38.1%

○「仮の町」を希望している町民は、帰還の意向が強い傾向にある。

○空き家リスクへの配慮が必要ではないか

「仮の町」の希望	全体	自宅の補修・再建、インフラの復旧後		条件付き帰還		現段階でまだ判断がつかない		双葉町に戻りたいとは思わない		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全体(中高生以外)	3498	375	10.7%	969	27.7%	940	26.9%	1064	30.4%	150	4.3%
「仮の町」に移り住みたい	242	46	19.0%	108	44.6%	48	19.8%	31	12.8%	9	3.7%
具体化されれば移住を検討	1609	216	13.4%	530	32.9%	554	34.4%	270	16.8%	39	2.4%
「仮の町」に住むつもりはない	1471	90	6.1%	296	20.1%	319	21.7%	737	50.1%	29	2.0%
無回答	176	23	13.1%	35	19.9%	19	10.8%	26	14.8%	73	41.5%

○「仮の町」を希望している町民は、公営住宅の希望が強く、民間賃貸住宅の希望を加えると、半数以上が賃貸を希望している。

○復興公営住宅を中心とした住宅整備が必要ではないか

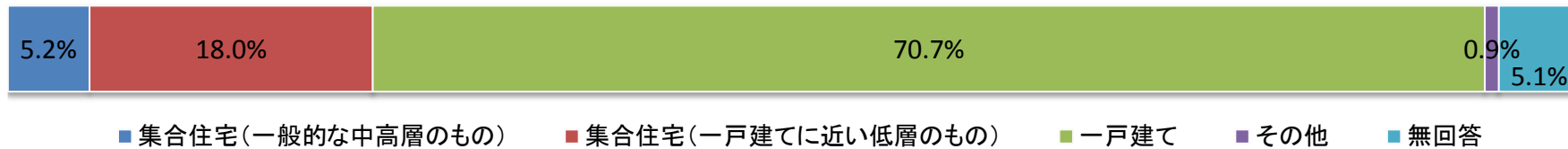
希望する住居形態	全体		「仮の町」に移り住みたい		具体化されれば移住を検討		「仮の町」に住むつもりはない		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全体(中高生以外)	3498	100%	242	100%	1609	100%	1471	100%	176	100%
民間賃貸住宅を借りる	762	21.8%	30	12.4%	371	23.1%	345	23.5%	16	9.1%
公営住宅を借りる	835	23.9%	134	55.4%	547	34.0%	128	8.7%	26	14.8%
持ち家(本人または家族所有)を買う	1532	43.8%	47	19.4%	569	35.4%	865	58.8%	51	29.0%
寮・社宅に居住する	46	1.3%	4	1.7%	7	0.4%	34	2.3%	1	0.6%
その他	164	4.7%	13	5.4%	79	4.9%	60	4.1%	12	6.8%
無回答	159	4.5%	14	5.8%	36	2.2%	39	2.7%	70	39.8%

論点2「仮の町」(仮称)の整備の在り方について、どのように整理するか

「仮の町」を希望する町民が希望する住宅

○「仮の町」を希望している町民は、一戸建て、または集合住宅でも一戸建てに近い低層のものを希望している人がほとんどである。

「仮の町」を希望する町民が希望する住宅の建て方(n=1851)



○公営住宅または民間賃貸住宅を希望している町民(=賃貸を希望している町民)は、一戸建ての希望が半数を超えているものの、一戸建てに近い低層の集合住宅を希望している人も多い。

希望する住居形態と希望する建て方との関係

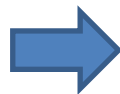
希望する住居形態	全体	集合住宅(一般的な中高層のもの)		集合住宅(一戸建てに近い低層なもの)		一戸建て		その他		無回答	
全体(中高生以外)	3498	232	6.6%	463	13.2%	2493	71.3%	47	1.3%	263	7.5%
民間賃貸住宅を借りる	762	112	14.7%	160	21.0%	437	57.3%	7	0.9%	46	6.0%
公営住宅を借りる	835	71	8.5%	224	26.8%	498	59.6%	3	0.4%	39	4.7%
持ち家(本人または家族所有)を買う	1532	28	1.8%	46	3.0%	1424	93.0%	8	0.5%	26	1.7%
寮・社宅に居住する	46	14	30.4%	9	19.6%	15	32.6%	2	4.3%	6	13.0%
その他	164	6	3.7%	19	11.6%	84	51.2%	26	15.9%	29	17.7%
無回答	159	1	0.6%	5	3.1%	35	22.0%	1	0.6%	117	73.6%

○復興公営住宅については、用地の確保状況に応じて、町民の希望が多い一戸建てだけでなく、一戸建てに近い低層の集合住宅を視野に入れてもいいのではないかと考えられる。

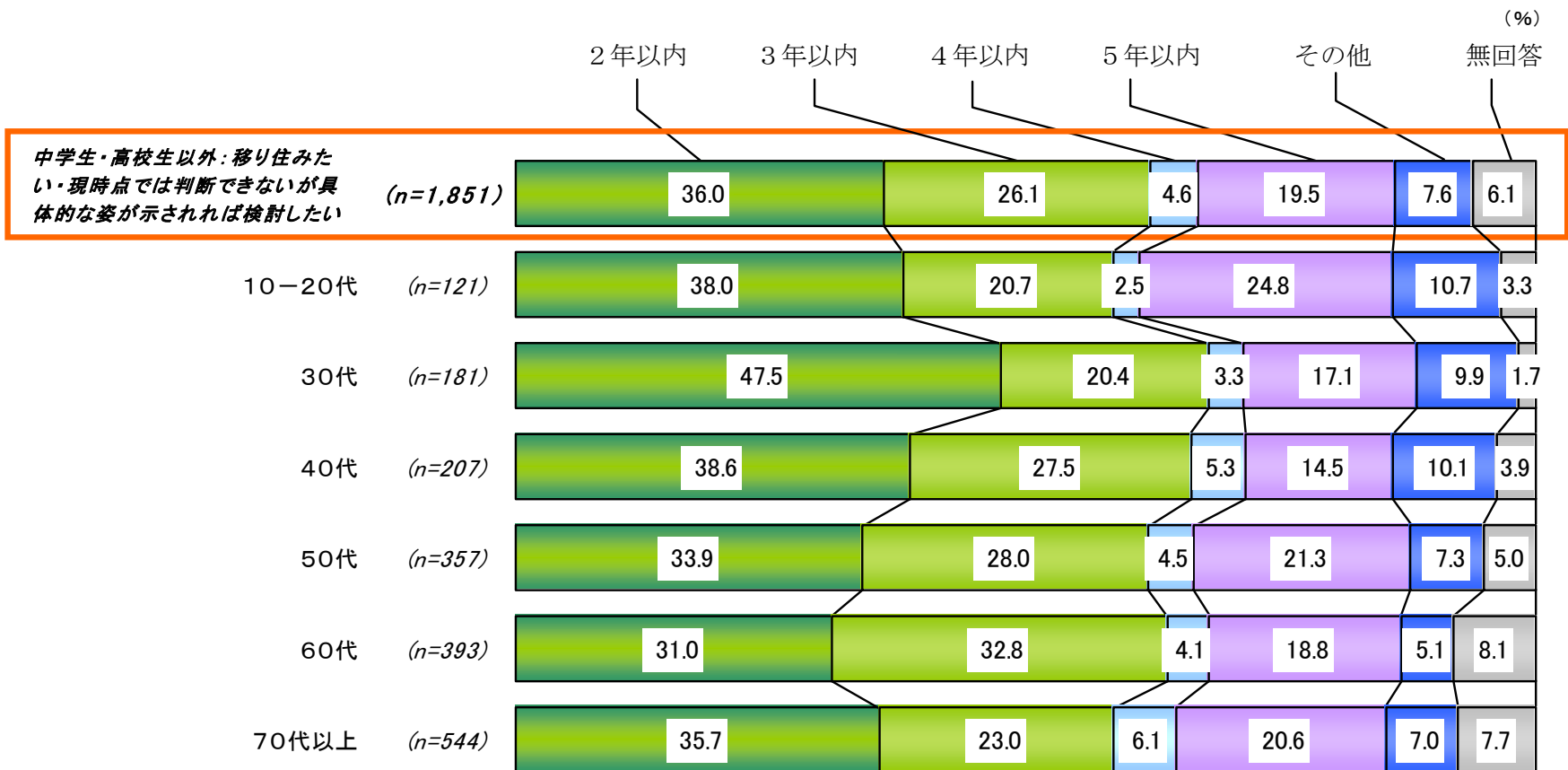
論点2「仮の町」(仮称)の整備の在り方について、どのように整理するか

「仮の町」に移り住むまでに待つことができる期間

○「仮の町」に移り住むまでに待つことができる期間は、半数以上が「3年以内」である。



○まず「3年以内」に復興公営住宅に入居できることを目標に掲げるべきではないか



論点2「仮の町」(仮称)の整備の在り方について、どのように整理するか

「仮の町」を集中型、分散型で整備することのメリット・デメリット

第1回生活再建部会資料から主要なものを抜粋(一部その後の議論を受けて修正)

集中型による整備		分散型による整備	
双葉町民がどこか1カ所にまとまって住むことができる町を整備する		双葉町民が住む復興公営住宅を複数自治体に分散して整備する	
メリット	デメリット	メリット	デメリット
【町の整備】 ・医療、福祉、商業施設などを集約して整備できる	・受入自治体の理解が課題となる ・一団の広い土地の確保が困難なおそれがある ・整備が長期化するおそれがある	・受入自治体の理解が容易である ・土地の確保が比較的容易である ・整備が早く進む期待がある ・既存施設の活用により、よりよいサービスを受けられる期待がある	・双葉町独自の施設整備は限られる
【学校】 ・子供が集まれば双葉町の学校の再開が容易となる	・そもそも子供が集まるかどうかの懸念		・学校を設置する場合には児童・生徒を集める特別の工夫が必要となる
【仕事】 ・旧来の商売の再開が容易となる	・仕事が限定される	・仕事の選択の場が広がる	・旧来の商売の再開は難しい(新たなコミュニティを対象とした商売(仕事)とする必要がある)
【町民のコミュニティ】 ・双葉町の一体性が確保できる ・これまでの町民のコミュニティを再開できる ・双葉町の歴史・伝統・文化の継承が容易になる	・町民の居住地選択が限定される ・受入自治体の住民との軋轢が生じる懸念がある	・町民の居住地選択の幅が広がる ・受入自治体住民との新たなコミュニティが期待される	・町民の双葉町離れが懸念される ・これまでの町民のコミュニケーションはとりづらくなる ・双葉町の歴史・伝統・文化の継承に特別の工夫が必要となる

○一カ所に町を整備する「集約型」は理想ではあるが、3年以内に整備を求める町民の声、町民に複数の選択肢を示すべきとの考え、受入自治体との共存したまちづくりを進めるという考えを踏まえると、分散によるデメリットを少なくする工夫を図りながら、複数の自治体に複数の地区を設ける「分散型」の整備が適当ではないか。

論点2「仮の町」(仮称)の整備の在り方について、どのように整理するか

「仮の町」を希望している町民が当面の生活拠点に期待しているもの

○「仮の町」を希望している町民は、①希望する形態の住宅が確保されること、②放射線量が十分に低いこと、③医療施設が近くにあること、④家族が一緒に住める場所であること、⑤交通が便利であることを重視している。

生活再建の場所を選択するのに重視する条件(3つまで)

「仮の町」の希望自治体	全体	②					⑤					③				①		④	
		放射線量が十分に低い	今の避難先と同じ場所または近く	双葉町と気候風土が近い	双葉町と距離が近い	交通が便利である	今の勤め先に通える場所である	希望する仕事が見つかるところ	仕事(事業)が再開できる環境にある	学校などの教育環境が整っている	医療施設が近くにある	介護・福祉施設が近くにある	役場出張所が近くにある	町民が集まれる施設が近くにある	双葉町の町民が近くにいること	希望する形態の住宅が確保される	家族と一緒に住める場所である	商店・コンビニなどが近くにある	自家栽培ができる畑が近いこと
全体(中学生以外)	3498	39.4%	8.3%	17.2%	6.9%	23.8%	7.4%	6.8%	3.1%	7.9%	32.0%	9.3%	8.1%	1.9%	9.6%	39.8%	30.8%	14.2%	3.9%
仮の町希望者(中学生以外)	1851	39.4%	5.9%	20.5%	8.9%	21.2%	5.8%	7.3%	3.5%	6.1%	32.2%	9.8%	9.3%	2.3%	12.8%	47.8%	29.9%	14.3%	4.7%
いわき市	1202	38.4%	5.9%	24.3%	10.3%	21.6%	6.4%	6.0%	3.3%	5.7%	31.7%	9.2%	10.1%	2.2%	15.5%	47.2%	28.7%	14.3%	4.7%
郡山市	279	38.7%	5.0%	17.6%	6.1%	29.0%	2.9%	10.8%	2.2%	6.1%	35.8%	10.8%	9.7%	2.9%	11.8%	53.0%	24.0%	15.8%	2.5%
福島市	83	38.6%	4.8%	14.5%	3.6%	28.9%	1.2%	10.8%	3.6%	7.2%	37.3%	10.8%	7.2%	1.2%	12.0%	59.0%	24.1%	16.9%	2.4%
白河市	93	31.2%	3.2%	11.8%	1.1%	34.4%	2.2%	9.7%	4.3%	5.4%	44.1%	10.8%	12.9%	1.1%	14.0%	47.3%	23.7%	17.2%	4.3%
南相馬市	252	39.3%	4.4%	28.6%	14.7%	17.5%	3.6%	4.8%	1.2%	4.4%	29.4%	9.1%	7.9%	4.0%	11.9%	55.2%	24.6%	18.3%	6.3%
埼玉県加須市	119	58.0%	14.3%	12.6%	4.2%	19.3%	3.4%	11.8%	4.2%	7.6%	31.1%	9.2%	10.9%	2.5%	10.9%	48.7%	25.2%	14.3%	4.2%
茨城県つくば市	103	46.6%	6.8%	21.4%	1.0%	22.3%	2.9%	4.9%	3.9%	7.8%	34.0%	10.7%	5.8%	1.9%	8.7%	55.3%	38.8%	17.5%	6.8%

○放射線量ができるだけ低い土地を選定することが必要ではないか

○既成の市街地の中に整備することが望ましいのではないか

○復興公営住宅の間取り・募集方法などに工夫が必要ではないか
○近くに若い世代を呼び込む仕組みが必要ではないか

相反する希望

○町民が希望する形態の住宅は「一戸建て」が多いが、ある程度まとまって一戸建ての住宅を整備するためには広大な土地が必要となるため、市街地から離れた場所とならざるを得ないのではないか

まとめ

○「仮の町」の整備の基本的な考え方は、以下のように整理してはどうか。

- ・高齢者が多いことを踏まえて、高齢者が安心して暮らせる住環境をまず整備する。
- ・帰還希望者や賃貸住宅希望者が多いことを踏まえて、復興公営住宅を中心に整備する。
- ・「仮の町」(復興公営住宅)に住む人だけでなく、その地域に住む町民全体のきずな(コミュニティ)の場としての機能が発揮できるように整備する。
- ・「仮の町」は、3年以内に復興公営住宅に入居が可能となることを目標に整備する。
- ・「仮の町」は、受入自治体における都市整備となるため、受入自治体との協議を通じて、「仮の町」に整備する住宅・施設などを決め、受入自治体のまちづくりにも貢献する。
注) 複数の避難町村が受入を求めている自治体については、福島県が主導的な調整・整備を行うことになる。

○「仮の町」の候補地の考え方は、以下のとおり整理してはどうか。

- ・3年以内に「仮の町」の整備を求める町民の声、町民に複数の選択肢を示すべきとの考え、受入自治体との共存したまちづくりを進めるという考えを踏まえ、双葉町民が住む復興公営住宅を複数の自治体に整備することで「仮の町」をつくる(「分散型」による整備)。
- ・候補自治体における候補地の選定については、放射線量が低く、交通や医療などの都市施設に近い利便性の高い場所を要望しつつ、福島県・受入自治体との協議を通じて決定する。その際、用地が複数に分かれる場合にあっては、できるだけ近隣同士となるよう、コミュニティへの配慮をあわせて要望する。また、離れた地区間の相互連携を図るため、デマンドバスや情報通信技術などを活用する。

○「仮の町」の施設整備の考え方については、以下のように整理してはどうか。

- ・「仮の町」の基本的な考え方を踏まえて、復興公営住宅とコミュニティ施設を必須施設として位置付ける。
- ・「仮の町」で暮らす上で不可欠な仕事、教育、医療・福祉、商業等の生活関連サービスを提供する施設については、「仮の町」の規模を踏まえて、周辺の既存施設との役割分担に配慮しながら、受入自治体との協議を経て、必要な施設の整備を要望する。

施設整備の考え方に対する町民の意見

◇「7000人の復興会議」の意見

- ◇生活のパッケージがほしい（住居、仕事、医療福祉）。 ◇住居、生活の糧、生業、経済全てが整わないと仮の町にはならない。
- ◇土地や住まいの確保も重要だけど、学校・道路・商業文化施設・行政施設など生活に必要な条件が揃っていないと生活していけない。
- ◇何もない所に作るのではなく、既存の同じ町の中で点在して住民が移り住んだ方が仕事、商業も揃っていて生活しやすい。
- ◇自活できる人は自活し、それが難しい人のための施設を優先して考えるべき。学校・病院等はその地域のものを利用し、あまり大きな投資にならないようにかつ経済弱者が利用しやすい施設を作ってほしい。

- ・整備される施設は、「仮の町」の住民だけではなく、他の場所に住む町民や周辺の地元住民へも開放される施設とする。
- ・「仮の町」において、自営業者の事業再開や、住民を対象とした新たな起業支援(雇用の創出)のため、需要に応じて、共同店舗や共同事業所の整備を要望する。

「仮の町」における事業再開・新たな仕事等に対する町民の意見

◇「7000人の復興会議」の意見

- ◇双葉町の人々が居るところで事業を再開したい。 ◇事業再開を目指す人に仮設工場・事務所を提供すべき。
- ◇双葉町の名産品を復活したい。 ◇資格があるので仮の町に住む高齢者の訪問ヘルパーなどの雇用を作って欲しい。
- ◇コミュニケーションをとるための仕事がしたい。 ◇就業のみでなく生きがいを見つけられるような支援を望む。

- ・施設整備に当たっては、同じ自治体を希望する双葉郡の他町村との連携を図る。

○「仮の町」の施設整備の考え方については、以下のように整理してはどうか。[つづき]

・「仮の町」における復興公営住宅については、福島県・受入自治体との協議の中で決まるため、福島県・受入自治体との協議の中で、町民の希望に沿った住宅を要望していく。

- 町民の希望が多い一戸建てまたは低層の集合住宅を中心としつつ、利便性が高い場所における中高層型の住宅ニーズを含めて、改めて町民の意向を確認しながら、要望していく。
- 高齢者が安心して暮らせる住環境を整備する観点から、バリアフリー住宅や介護サービスと住宅の一体整備など、高齢者にやさしい住宅を要求していく。

高齢者にやさしい住宅を求める町民の意見

◇「7000人の復興会議」の意見

◇高齢者が安心して介護を受けながら暮らせるような住まいを早く用意してほしい。

◇住居+デイサービスを併設した住環境が必要。

◇5階建でもエレベータをつけるべき。

◇高齢者長屋のような所がほしい。

- 家族と一緒に住みたいという町民の声を踏まえて、間取りや募集方法に配慮を要求していく。

家族と一緒に住みたいとの町民の意見

◇「7000人の復興会議」の意見

◇震災後家族がバラバラになって暮らしているので、早く皆で一緒に暮らしたい。

◇家族と一緒に暮らせる当たり前の生活が取り戻せるように土地と家を用意してほしい。

◇単に人数に応じた機械的な仕様ではなく、高齢者への配慮、家族との同居等ニーズに応じた供給をしてほしい。

・若い世代を「仮の町」に呼び込むため、「仮の町」における子育て支援関連施策の充実など若い世代を対象とした施策について、受入自治体との協議の中で、併せて検討する。

「仮の町」の規模ごとの整備イメージ

あくまでイメージであり、今後の受入自治体との調整によって変わりうるものである。

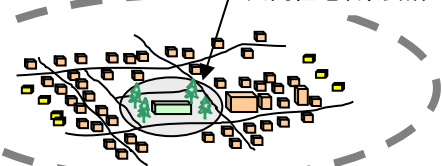
特に希望が集まっている自治体における「仮の町」の整備イメージ

[数百戸程度の復興公営住宅を中心とする大きな「仮の町」のイメージ]

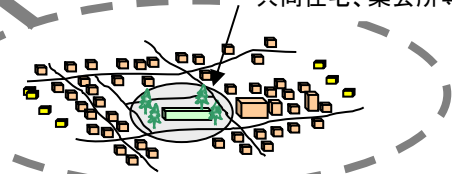
- 復興公営住宅を地区ごとに整備
- 地域の町民の拠点となる集会所等の整備
- 役場の設置
- 希望に応じて共同店舗・事業所の整備
- 受入自治体との協議において、周辺地域との分担を含めて、生活関連施設の整備方針を決定
 - 病院・診療所、介護施設、保育所、小中学校、幼稚園 等
- 必要に応じて文化施設(記念館)などを整備

「仮の町」・公営住宅の希望は少ないが、一定の町民が集まっている自治体の「コミュニティ拠点」のイメージ

共同住宅、集会所等



共同住宅、集会所等



- 町民同士が集まって入居したい町民の実際の要望を踏まえて、受入自治体における既存住宅の活用も視野に、希望する町民がまともに入居できる住宅を要請
- その自治体・周辺に暮らす町民を対象としたコミュニティの拠点として集会所等を確保

全国の町民

情報端末・交流機会を最大限活用して
コミュニティを維持したひとつの「双葉」に

一定の希望がある自治体の「仮の町」の整備イメージ

「仮の町」A地区

- 復興公営住宅
- 集会所等
- 役場
- [店舗・事業所]
- [文化施設(記念館)]

「仮の町」B地区

- 復興公営住宅
- 集会所等
- [店舗・事業所]
- [病院、社会福祉施設]
- [学校、保育所]

「仮の町」C地区

復興公営住宅(利便性が高い地域の中高層型)

「仮の町」D地区

- 復興公営住宅
- 集会所等
- [店舗・事業所]

複数地区となることも考えられる

デマンドバス・情報端末を使って地区間を相互連携

A、B、C地区以外に居住する町民

D地区以外に居住する町民

[百戸程度の復興公営住宅を中心とする小さな「仮の町」のイメージ]

- 復興公営住宅の整備
- 地域の町民の拠点となる集会所等の整備
- 希望に応じて共同店舗・事業所の整備
- 生活関連サービスは、受入自治体における既存施設を活用

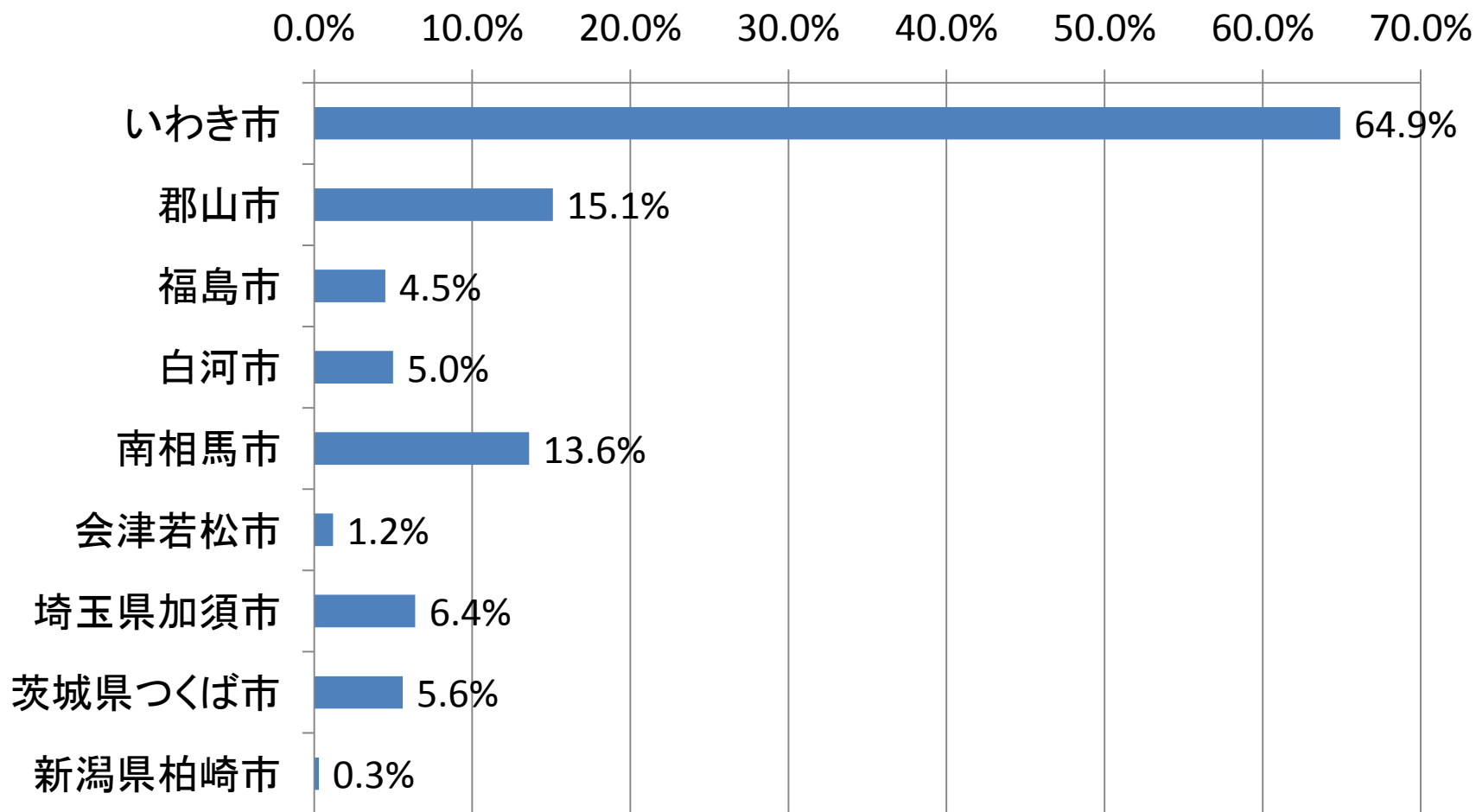
論点3「仮の町」(仮称)の候補自治体について、どのように整理するか

「仮の町」の設置を希望する自治体

○「いわき市」を希望している町民が最も多く、次に「郡山市」「南相馬市」に相応の希望がある。「加須市」「つくば市」「白河市」「福島市」に一定の希望があるが、その数は「いわき市」・「郡山市」・「南相馬市」に比べれば少ない。

「仮の町」の設置を希望する自治体(複数回答)

「仮の町に移り住みたい」・「現時点では判断できないが具体的な姿が示されれば検討したい」・中高生以外(N=1851)

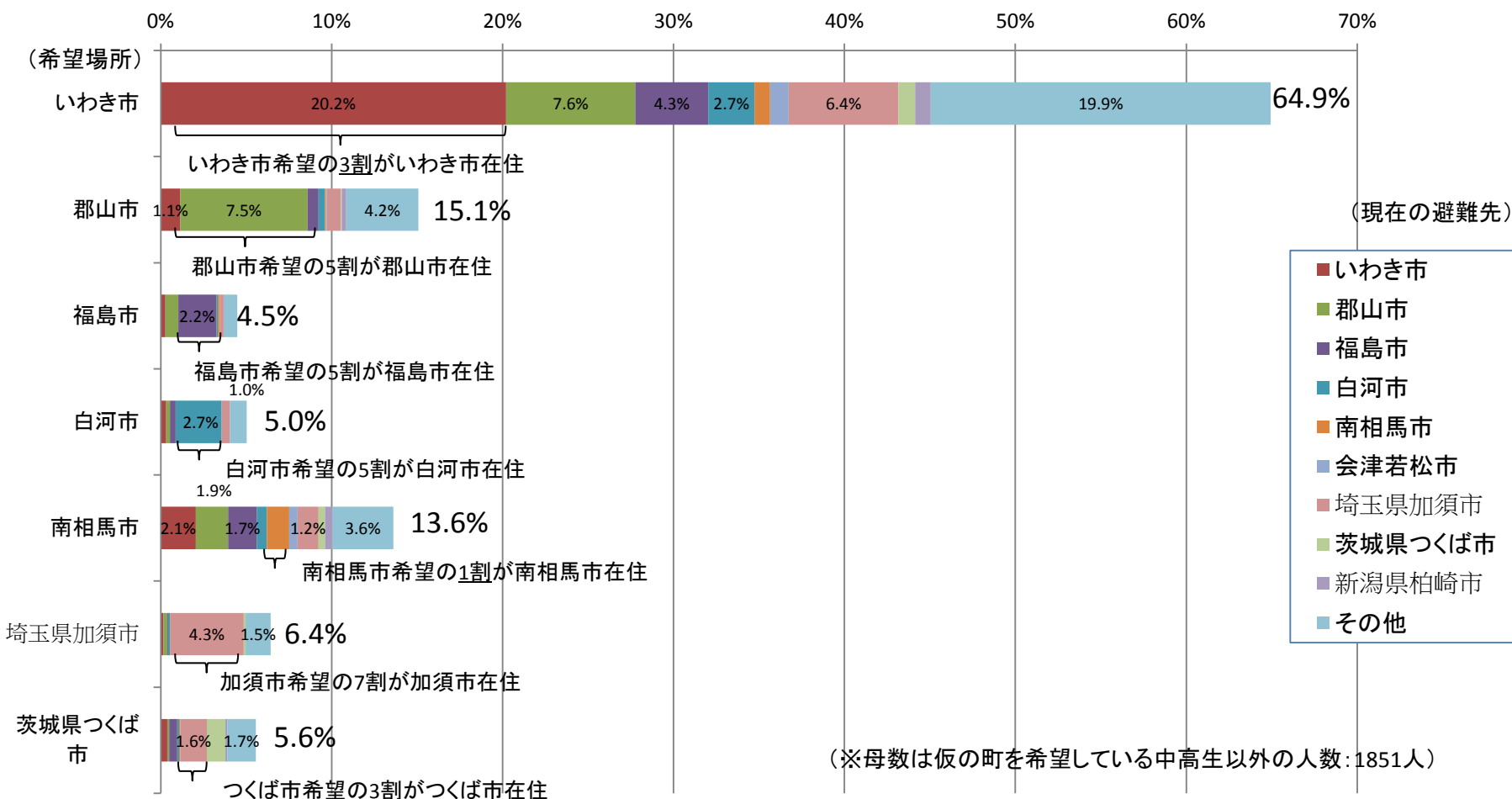


論点3「仮の町」(仮称)の候補自治体について、どのように整理するか

「仮の町」の候補自治体と避難先の関係

- 「いわき市」・「南相馬市」・「つくば市」は、その市に既に避難している人だけでなく、他の地域からも希望がある。
- 「郡山市」・「福島市」・「白河市」・「加須市」は、概ね、その市に避難している人が希望の中心となっている。

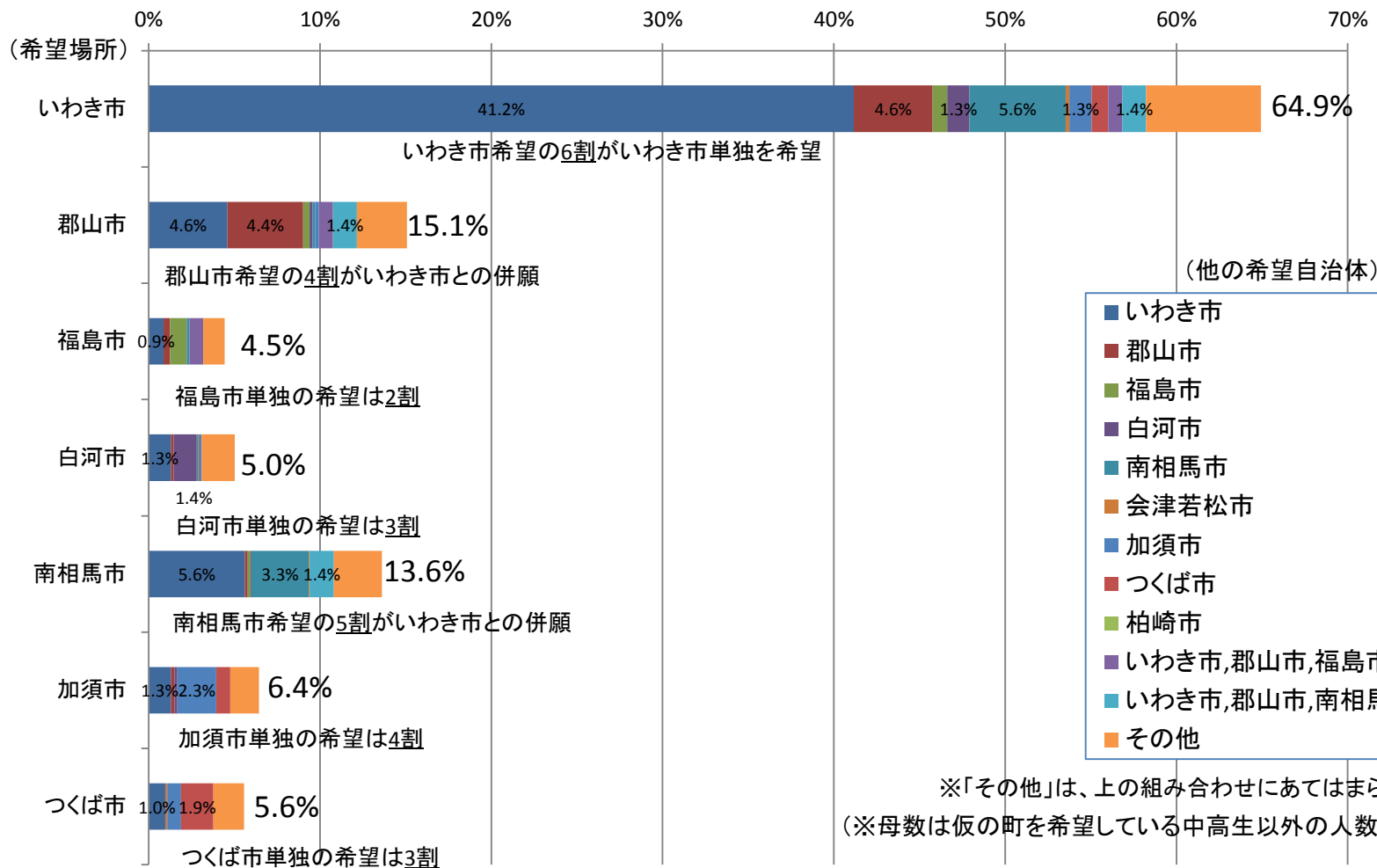
仮の町の希望場所①
～避難先別・希望地意向割合～



「仮の町」の候補自治体と希望の重複の関係

- 「いわき市」を希望している人の多くは、「いわき市」を単独で希望している。
- 「郡山市」と「南相馬市」を希望している人の半数近くは、「いわき市」をあわせて希望しているため、「いわき市」に仮の町が整備されると、規模は半分となる可能性がある。

仮の町の希望場所②
～希望地を単独又は複数選択した人の内訳～

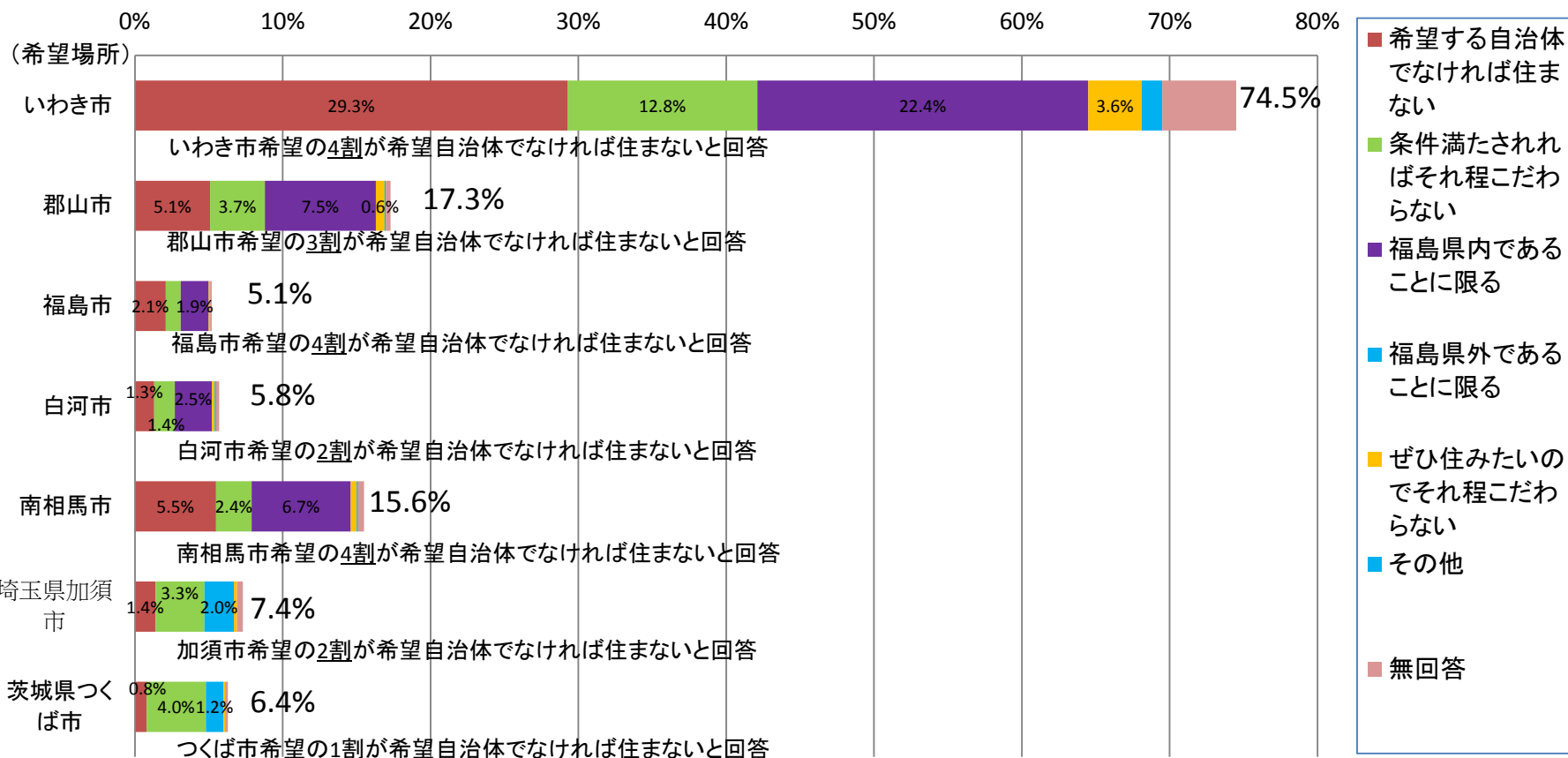


論点3「仮の町」(仮称)の候補自治体について、どのように整理するか

「仮の町」の候補自治体への強いこだわり

- 「いわき市」・「南相馬市」・「福島市」を希望する人は、約4割が、「希望する自治体でなければ住まない」としている。
- 「白河市」・「加須市」・「つくば市」については、その自治体でなければならぬ特に強い希望は見受けられない。

仮の町の希望場所③
～希望地別・当該希望地へのこだわり割合～



(※母数は仮の町を希望している中高生以外の人数:1613人)

論点3「仮の町」(仮称)の候補自治体について、どのように整理するか

「仮の町」の想定される規模

※この資料は、住民意向調査の結果を分析したものであって、要望戸数とは異なる。

「仮の町」の主たる住宅である「復興公営住宅」に着目して、その規模を推計すると以下のとおり。

「仮の町」において公営住宅を希望する人〔複数回答〕

	世帯 (=戸数)	人数
「仮の町」の希望者 (中高生以外)	338	681
いわき市	237	476
郡山市	63	123
南相馬市	62	117
埼玉県加須市	21	38
茨城県つくば市	17	35
白河市	30	57
福島市	18	33
会津若松市	2	6
新潟県柏崎市	1	3

回収率
59%
を
考慮

- いわき市には、最大で400戸800人程度の「仮の町」における復興公営住宅のニーズがある。
- 郡山市及び南相馬市には、最大で100戸200人程度の「仮の町」における復興公営住宅のニーズがある。
ただし、郡山市及び南相馬市は、いわき市と重複して希望している人も多いため、その半分程度の戸数となる可能性もある。
- 加須市、つくば市、白河市、福島市は、公営住宅希望が最大で30～50戸60～100人程度にとどまっている。
さらに、これらの自治体を単独で希望している人は少ないため、いわき市などで整備が進むと、これらの自治体への希望者はさらに少なくなる可能性がある。
そのため、町民同士が集まって入居したい町民の実際の要望を踏まえて、受入自治体における既存住宅の活用も視野に、希望する町民がまとまって入居できる住宅を要請していくことが適当ではないか。
- これら以外の自治体については、公営住宅希望者がそもそもほとんどないので、「仮の町」に住まない方への個別支援として住居の確保を支援する。

複数回答のため、候補自治体ごとの合計は、「仮の町」の希望者数を上回っている

※復興公営住宅の実際の要望戸数は、「仮の町」を希望しないが公営住宅を希望している人なども加えて、さらに精査して、県に対して要望することになる。

論点3「仮の町」(仮称)の候補自治体について、どのように整理するか

「仮の町」の候補自治体の考え方

町民に複数の選択肢を示す

○町民の希望にあわせて複数の自治体を候補とすべきではないか

「仮の町」の希望は「いわき市」が最も多い。

全国に避難している町民が、「仮の町」を希望するなら、「いわき市」としている。

「仮の町」を「いわき市」としている町民は、「いわき市」のみを希望し、「いわき市」でなければ住まないとする人も多い。

○双葉町の「仮の町」は、「いわき市」をメイン拠点としてはどうか。

「郡山市」・「南相馬市」は、「いわき市」に比べて希望は少ないが、まとまった復興公営住宅の整備を要する一定の希望はある。

「郡山市」・「南相馬市」は、「いわき市」と併願している人も多い。

○「郡山市」「南相馬市」を、双葉町の第2・3の「仮の町」の候補としてはどうか。
ただし、「いわき市」の希望状況によって、規模を再検討する必要がある。

「福島市」・「白河市」・「加須市」・「つくば市」は、施設整備を要するほどの多くの希望はないが、「仮の町」(=まとめて住みたい)の希望はある。

「福島市」・「白河市」・「加須市」・「つくば市」には、「仮の町」を希望しない人を含めると一定の町民が居住することが見込まれる。

○「福島市」・「白河市」・「加須市」・「つくば市」については、施設整備前提の「仮の町」としてではなく、双葉町民のコミュニティの拠点として位置付けて、集まって住みたい町民の希望を踏まえた住宅確保とその地域の町民が集まれる場を確保してはどうか。

(参考)
住民意向調査のその他の分析結果

参考:「仮の町」に住まない方も含めて町民が今後居住を希望している自治体

- 町民の約4割が「いわき市」を希望している。「いわき市」はどの避難地域からも一定の希望がある。
- 現在の避難先と同じ自治体に引き続き住みたいとする希望は、「いわき市」の希望とともに多い傾向にある。特に、「いわき市」・「郡山市」・「白河市」・「南相馬市」・「つくば市」は、そのまま居住したい意向が強い。

避難先別の今後の居住希望先[複数回答] (「仮の町」を希望する人は「仮の町」を希望する市町村、「仮の町」を希望しない人は今後の避難期間中に居住を希望する市町村を合計)

現在の避難先	今後の居住希望先	いわき市	郡山市	福島市	白河市	南相馬市	会津若松市	福島県内のその他※	埼玉県加須市	茨城県つくば市	新潟県柏崎市	福島県外のその他※	無回答・希望なし・現時点では判断できない
中高生以上 全員(N=3498)		42.2%	9.7%	4.2%	3.3%	8.5%	0.9%	5.4%	4.4%	4.0%	0.5%	10.9%	21.8%
いわき市 (n=736)		77.3%	2.9%	0.7%	0.8%	5.4%	0.1%	2.9%	0.4%	1.0%	0.0%	1.1%	13.6%
郡山市 (n=375)		40.5%	49.1%	3.7%	1.1%	11.7%	0.3%	4.3%	1.1%	0.5%	0.0%	3.2%	16.5%
福島市 (n=244)		37.3%	7.0%	40.2%	2.9%	14.8%	0.4%	5.3%	0.4%	3.7%	0.4%	1.6%	14.3%
白河市 (n=136)		40.4%	5.1%	1.5%	50.0%	11.0%	0.7%	4.4%	2.2%	2.2%	0.0%	2.2%	16.2%
南相馬市 (n=76)		22.4%	1.3%	3.9%	0.0%	57.9%	0.0%	15.8%	0.0%	1.3%	0.0%	2.6%	14.5%
会津若松市 (n=61)		39.3%	6.6%	0.0%	0.0%	14.8%	24.6%	9.8%	0.0%	0.9%	0.0%	1.6%	18.0%
福島県内の その他(n=290)		34.5%	8.3%	3.8%	3.1%	6.6%	1.4%	25.2%	1.7%	0.9%	0.0%	3.1%	23.8%
埼玉県加須市 (n=352)		36.9%	4.8%	1.1%	2.6%	6.5%	0.0%	2.8%	32.7%	8.2%	0.0%	6.0%	25.3%
茨城県つくば市 (n=88)		21.6%	1.1%	0.0%	0.0%	8.0%	0.0%	2.3%	2.3%	60.2%	0.0%	1.1%	13.6%
新潟県柏崎市 (n=57)		35.1%	8.8%	1.8%	0.0%	14.0%	0.0%	7.0%	0.0%	3.5%	22.8%	0.0%	22.8%
福島県外の その他(n=1052)		27.8%	5.2%	0.8%	1.1%	4.8%	0.7%	2.5%	1.8%	3.0%	0.1%	30.5%	31.5%
無回答 (n=31)		19.4%	6.5%	3.2%	0.0%	0.0%	3.2%	3.2%	9.7%	6.5%	0.0%	0.0%	32.3%

現在の避難先と同じ自治体を希望している割合

※居住希望先の「福島県内のその他」には、「福島県内のその他の市町村」と「具体的に決まっていないが福島県内のいずれかの市町村」を含む。「福島県外のその他」には、「福島県外のその他の市町村」と「具体的に決まっていないが福島県外のいずれかの市町村」を含む。

当面の生活拠点に求めるもの

(※全世代とも高い「放射線」と「住居確保」を除く優先順位の高いもの)

- ◆ 若者(10-20代) ⇒ 「利便性」, 「希望する仕事」
- ◆ 親・子育て世代(30-50代) ⇒ 「利便性」, 「教育環境(30代)」, 「医療」
- ◆ 高齢者(60-70代) ⇒ 「利便性(60代)」, 「医療」, 「介護(70代)」, 「気候風土」

生活再建の場所を選択するに重視条件(3つまで回答) ※「仮の町」の希望の有無によらない

	全体	放射線量が十分に低い	今の避難先と同じ場所または近く	双葉町と気候風土が近い	双葉町と距離が近い	交通が便利である	今の勤め先に通える場所である	希望する仕事が見つかる場所	仕事(事業)が再開できる環境にある	学校などの教育環境が整っている	医療施設が近くにある	介護・福祉施設が近くにある	役場出張所が近くにある	町民が集まれる施設が近くにある	双葉町の町民が近くにいること	希望する形態の住宅が確保される	家族と一緒に住める場所である	商店・コンビニなどが近くにある	自家栽培ができる畑が近いこと
全体 中高生除く	3498	39.4%	8.3%	17.2%	6.9%	23.8%	7.4%	6.8%	3.1%	7.9%	32.0%	9.3%	8.1%	1.9%	9.6%	39.8%	30.8%	14.2%	3.9%
10-20代	290	48.6%	8.6%	12.4%	5.2%	31.4%	14.5%	23.4%	4.5%	11.0%	18.6%	2.8%	7.2%	1.0%	5.9%	25.5%	30.3%	15.2%	1.7%
30代	413	51.1%	8.5%	9.4%	2.4%	20.8%	15.7%	13.3%	3.9%	32.0%	20.3%	1.2%	3.6%	0.5%	4.1%	36.3%	35.8%	9.4%	2.2%
40代	407	48.4%	10.3%	17.0%	3.4%	22.4%	13.5%	12.0%	5.7%	16.5%	20.6%	4.2%	5.4%	1.0%	5.7%	47.2%	37.6%	9.1%	2.0%
50代	666	42.0%	8.1%	18.5%	5.3%	28.8%	11.6%	6.5%	2.7%	3.0%	32.0%	6.8%	6.0%	1.4%	6.9%	45.8%	33.0%	14.3%	5.4%
60代	691	34.0%	10.1%	20.0%	4.8%	26.9%	1.7%	2.3%	3.3%	2.0%	42.8%	9.0%	8.2%	1.4%	9.6%	49.3%	28.9%	17.5%	6.5%
70代以上	907	31.9%	6.1%	20.3%	13.8%	18.1%	0.1%	0.2%	1.4%	0.4%	39.9%	19.1%	13.5%	4.2%	17.4%	33.1%	27.2%	16.5%	3.1%

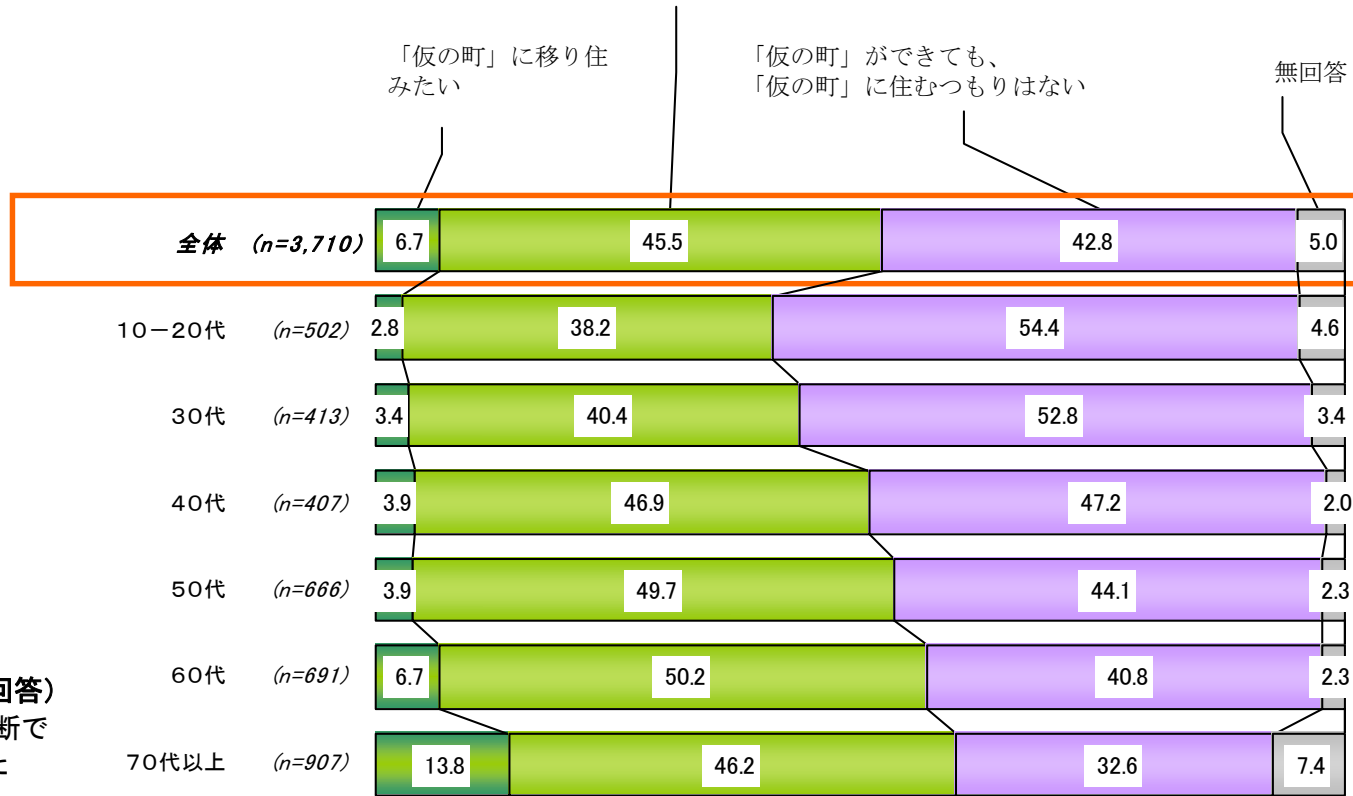
全世代共通の「放射線」、「住居確保」以外の優先順位を見ると、世代間での志向の違いが垣間見える。双葉町に近い環境や医療・介護施設を求める「高齢者」に対し、希望する仕事を重視する「若者」と教育環境を重視する「親・子育て世代」の構図がみられる。

参考:「仮の町」の希望の世代別の傾向

(%)

- 「仮の町」の希望は、年代が高くなるほど、希望が多くなる傾向にある。
- 「仮の町」を希望する自治体は、世代ごとに大きな違いが見られないが、「特に希望はない」とする回答が、若い世代ほど多い傾向にある。

現時点では判断できないが、「仮の町」の具体的な姿が示されれば、移り住むことを検討したい



「仮の町」の設置を希望する自治体(複数回答)
 「仮の町に移り住みたい」・「現時点では判断できないが具体的な姿が示されれば検討したい」・中高生以外(N=1851)

	全体	いわき市	郡山市	福島市	白河市	南相馬市	会津若松市	福島県内のその他の市町村	埼玉県加須市	茨城県つくば市	新潟県柏崎市	福島県外のその他の市町村	特に希望はない	無回答
全体 (中高生以外)	1851	64.9%	15.1%	4.5%	5.0%	13.6%	1.2%	5.9%	6.4%	5.6%	0.3%	2.6%	9.7%	3.2%
10-20代	121	52.1%	21.5%	3.3%	4.1%	11.6%	3.3%	2.5%	5.8%	6.6%	0.0%	3.3%	22.3%	2.5%
30代	181	60.8%	11.6%	4.4%	2.2%	8.8%	0.0%	6.1%	6.1%	4.4%	1.1%	4.4%	14.4%	2.2%
40代	207	57.5%	16.4%	3.4%	4.3%	14.0%	1.4%	7.7%	6.3%	3.4%	0.0%	4.8%	13.5%	2.4%
50代	357	64.7%	16.8%	4.2%	5.9%	12.9%	1.4%	5.6%	9.8%	7.3%	0.0%	2.2%	11.2%	2.0%
60代	393	65.1%	17.6%	3.6%	6.1%	12.2%	1.0%	5.9%	6.4%	7.4%	0.3%	3.1%	6.1%	4.8%
70代以上	544	72.6%	11.4%	6.1%	4.8%	17.1%	1.1%	6.1%	4.4%	4.2%	0.6%	1.3%	5.5%	2.9%

参考：避難生活で困っていること(世代別)

医療サービス

○具体的な悩みとしては、どの世代も「特にない」とする一方、現在の避難先で「かかりつけ医がない」、「診療までに時間がかかる」など双葉町在住当時と現状とのギャップへの困惑がうかがえる。

年代別 (中高生以外)	全体	医療機関がない、もしくは少ない	遠くまで通院することになった	特定の診療科がない	かかりつけ医がない	受付から診療まで時間がかかる	診察・診療の質に満足できなかった	その他	特にない	無回答
10-20代	290	4.8%	12.1%	8.3%	32.4%	20.3%	5.2%	0.7%	46.2%	2.8%
30代	413	4.6%	14.5%	5.6%	38.3%	24.9%	8.2%	1.0%	38.5%	3.1%
40代	407	4.4%	10.8%	4.7%	41.5%	27.0%	7.9%	2.7%	36.6%	1.7%
50代	666	3.8%	11.1%	4.7%	33.0%	23.7%	7.8%	1.7%	40.5%	4.7%
60代	691	3.2%	15.1%	4.9%	24.2%	22.4%	6.5%	1.6%	45.0%	5.9%
70代以上	907	3.4%	24.3%	6.0%	21.2%	28.1%	9.7%	1.9%	36.2%	9.5%

介護サービス

○具体的な悩みとしては、「特にない」が多い一方で、避難先において「遠くまで通うことになった」、「利用し慣れた施設がない」など双葉町在住当時と現状とのギャップへの困惑が相対的に多く見られる。

自身または家族が介護・福祉サービスを受けている人が母数	全体	施設が少なくサービスが受けられない	設備が整っていない	職員が少ない(足りていない)	遠くまで通う事になった・通いにくい	利用し慣れた施設・事業所がない	その他	特にない	無回答
10-20代	48	10.4%	8.3%	2.1%	8.3%	14.6%	2.1%	64.6%	4.2%
30代	46	6.5%	10.9%	8.7%	17.4%	10.9%	6.5%	41.3%	17.4%
40代	56	5.4%	7.1%	0.0%	21.4%	16.1%	8.9%	46.4%	8.9%
50代	168	8.9%	3.6%	4.8%	18.5%	11.3%	6.5%	50.0%	9.5%
60代	138	6.5%	2.9%	6.5%	17.4%	7.2%	8.0%	47.1%	16.7%
70代以上	244	7.4%	3.7%	5.3%	10.7%	7.0%	7.8%	57.4%	13.1%

学校（教育）

- 「通学にかかる時間がかかる」、「環境変化による学習の遅れ」など避難先での環境への困惑がある一方、「居住地不定で進路・学校選択が決められない」と今後の子どもの進路を未だ決めかねている様子が伺える。
- 中高生本人でみると、「学校へ行きたくなくなった」、「転校先の学校や友達になじめない」が比較的多い。

「中高生以外」は、学校に通っている子供がいる人を母数としている	子どもが不登校になった※1	通学にかかる時間がかかった	避難先の学校では施設が不足している	先生の学習指導・教育相談が不十分	環境の変化による学習の進捗の遅れ※2	避難している子どもたちに対する偏見※3	居住地不定で、進路が決められない	転校先の学校や友達になじめない	その他	特になし	無回答
中高生本人	11.3%	24.5%	7.5%	5.2%	19.3%	9.0%	19.3%	11.3%	2.4%	42.5%	2.4%
10-20代	1.4%	12.5%	5.6%	5.6%	13.9%	5.6%	20.8%	4.2%	2.8%	54.2%	15.3%
30代	3.7%	12.8%	3.2%	5.0%	16.1%	6.9%	41.7%	6.9%	2.3%	32.1%	6.0%
40代	6.7%	24.7%	6.0%	9.7%	24.3%	16.5%	36.7%	9.7%	4.5%	27.3%	5.2%
50代	3.5%	16.5%	1.5%	5.5%	16.5%	11.0%	27.0%	4.5%	5.0%	41.5%	10.0%
60代	1.9%	5.6%	2.5%	3.1%	8.1%	4.4%	11.3%	3.1%	0.6%	45.6%	34.4%
70代以上	0.6%	4.4%	0.6%	1.5%	4.1%	1.8%	5.6%	3.2%	1.8%	39.9%	46.3%

(注1) 中高生への教育に関する選択肢は下記の通り。
 ※1「学校に行きたくなくなった」、※2「環境の変化で勉強についていけない」、※3「他の生徒から偏見の目で見られる」
 (注2) 中高生以外は学校に通わせている人のみを対象

地域コミュニティ

- どの世代も「双葉町民との再開の機会」や「避難先での地域住民との交流」が少ないと考えている人が多い。

年代別	全体	地域の人、友達と集まる機会が少ない	避難先の地域住民との交流が少ない	困り事を相談できる人が近くにいない	その他	特になし	無回答
中高生	212	59.9%	16.5%	20.3%	1.4%	34.4%	1.4%
10-20代(中高生除く)	290	63.8%	24.1%	19.7%	0.3%	30.0%	2.4%
30代	413	61.5%	35.8%	21.1%	3.1%	29.1%	2.7%
40代	407	69.0%	43.7%	23.1%	2.7%	21.6%	1.2%
50代	666	70.0%	48.6%	25.8%	3.0%	18.8%	2.3%
60代	691	65.6%	44.4%	23.6%	1.4%	22.9%	3.2%
70代以上	907	65.9%	46.2%	23.4%	1.9%	19.2%	6.6%

仕事

【世代間比較】

- 仕事に対する問題は、40～50代に多い（就労について困っていることが「特にない」の回答が少ない）。
- 「居住地不定のため仕事を固めきれない」、「仕事のために家族の別居生活が生じた」、「給与が減った」、「職場が遠くなった」という回答が多い。

年代別 (中高生 以外)	希望する 仕事がない	職場が遠 くなった	震災前と 違う職で あり、慣 れない	給与が 減った	長期雇用 が保障さ れない	職場の人 の目が気 になる	仕事のため に家族の 別居生活 が生じた	居住地不定 のため仕事 を固めきれ ない	仕事が 減った	その他	特にない	就労する 必要がない	無回答
10～20代	19.3%	16.9%	5.5%	18.3%	8.6%	12.4%	15.5%	15.5%	5.2%	2.8%	21.7%	14.8%	3.8%
30代	11.4%	20.3%	7.5%	23.0%	11.9%	14.8%	20.1%	21.5%	3.9%	7.0%	17.4%	6.5%	5.6%
40代	15.0%	22.1%	11.5%	22.4%	15.0%	13.5%	24.1%	28.7%	8.4%	6.4%	11.5%	6.9%	3.2%
50代	13.2%	18.3%	8.7%	19.4%	12.0%	10.5%	24.3%	25.4%	6.3%	6.0%	15.0%	6.9%	5.9%
60代	11.3%	6.5%	4.1%	5.2%	5.2%	2.0%	9.8%	15.9%	3.8%	3.3%	19.5%	25.8%	14.5%
70代以上	2.9%	0.7%	0.4%	0.8%	1.0%	0.6%	3.9%	3.9%	1.1%	1.9%	27.1%	29.7%	31.1%

【職業別比較】

- 職業別に見ると、景気の影響を直接受ける会社員（労務）、パート等非正規労働者が抱える課題が多い。

元々の職業 (中高生以外)	希望する仕 事がない	職場が遠く なった	震災前と違 う職であり、 慣れない	給与が減っ た	長期雇用が 保障されな い	職場の人 の目が気 になる	仕事のため に家族の別 居生活が生 じた	居住地不定 のため仕事 を固めきれ ない	仕事が減っ た	その他	特にない	就労する必 要がない	無回答
自営業	10.6%	5.8%	6.6%	9.6%	8.0%	3.0%	9.6%	22.1%	9.2%	5.6%	20.7%	8.6%	21.3%
会社員(事務)	12.1%	22.2%	7.4%	27.2%	10.4%	9.5%	27.5%	15.7%	6.8%	6.2%	17.5%	4.1%	6.5%
会社員(労務)	16.5%	30.8%	9.8%	30.0%	15.3%	11.7%	25.3%	24.6%	8.2%	4.6%	11.8%	2.4%	4.4%
公務員	4.6%	17.3%	8.1%	7.5%	4.0%	12.7%	39.3%	12.1%	0.0%	9.2%	28.9%	3.5%	2.9%
パート・ アルバイト	20.0%	6.5%	8.0%	8.6%	11.7%	13.2%	9.5%	32.3%	2.5%	3.4%	15.4%	11.4%	8.9%
学生	11.3%	4.1%	0.0%	2.1%	1.0%	7.2%	3.1%	6.2%	1.0%	1.0%	23.7%	35.1%	16.5%
無職(退職者含 む)	4.6%	0.4%	0.8%	0.6%	1.8%	2.0%	4.6%	6.0%	0.2%	2.4%	24.4%	38.6%	21.5%
その他	8.3%	13.6%	7.6%	13.6%	9.8%	12.1%	15.2%	27.3%	6.1%	7.6%	17.4%	6.8%	12.9%

参考：避難生活で困っていること(避難先別)

医療サービス

○どの避難先でも総じて「困っていることがある」割合は高く、「かかりつけ医がない」、「診療まで時間がかかる」ことに課題を抱えている人が多い。その中で、南相馬市は「医療機関がない/少ない」、「特定の診療科がない」が相対的に多い。

避難先別 (中高生以外)	全体	医療機関 がない、も しくは少な い	遠くまで通 院すること になった	特定の診 療科がな い	かかりつ け医が ない	受付から 診療まで 時間がか かる	診察・診 療の質に 満足でき なくなった	その他	特にな い	無回答	困ってい ることがあ る(計)
全体	3498	3.7%	15.8%	5.4%	29.2%	24.6%	7.9%	1.7%	39.8%	6.3%	53.9%
いわき市	736	2.9%	20.9%	6.7%	37.5%	31.7%	9.2%	2.3%	28.9%	5.2%	65.9%
郡山市	375	0.5%	13.6%	3.7%	22.4%	25.1%	5.6%	0.5%	43.7%	8.0%	48.3%
福島市	244	1.6%	14.3%	3.7%	23.4%	21.7%	6.1%	1.6%	51.2%	4.5%	44.3%
白河市	136	1.5%	3.7%	2.9%	14.7%	35.3%	7.4%	0.7%	48.5%	7.4%	44.1%
南相馬市	76	21.1%	11.8%	15.8%	19.7%	32.9%	7.9%	5.3%	27.6%	5.3%	67.1%
会津若松市	61	1.6%	16.4%	1.6%	23.0%	24.6%	6.6%	—	29.5%	19.7%	50.8%
福島県内のその他の市町村	290	8.3%	20.7%	8.3%	26.2%	20.3%	8.6%	1.0%	39.3%	5.9%	54.8%
埼玉県加須市	352	2.8%	16.5%	6.8%	36.1%	33.8%	11.6%	1.4%	30.4%	6.3%	63.4%
茨城県つくば市	88	2.3%	19.3%	2.3%	22.7%	17.0%	9.1%	4.5%	45.5%	8.0%	46.6%
新潟県柏崎市	57	5.3%	10.5%	8.8%	33.3%	5.3%	7.0%	1.8%	47.4%	7.0%	45.6%
福島県外のその他の市町村	1052	4.1%	13.7%	4.3%	29.3%	18.2%	6.9%	1.9%	46.5%	5.0%	48.5%
無回答	31	3.2%	9.7%	—	22.6%	12.9%	—	—	29.0%	41.9%	29.0%
福島県内の市町村(計)	1918	3.6%	16.9%	5.9%	28.3%	27.5%	7.8%	1.6%	37.6%	6.4%	56.0%
福島県外の市町村(計)	1549	3.7%	14.5%	4.9%	30.6%	21.2%	8.1%	1.9%	42.8%	5.6%	51.6%

介護・福祉サービス

○介護についても、医療ほどではないが、どの避難先でも総じて「困っていることがある」という回答は多いが、南相馬市は相対的に高く（57.1%）、福島市（28.8%）、加須市（25.4%）は相対的に低い。

○南相馬市については、他の地域に比べて、「施設が少なくサービスが受けられない」、「遠くまで通う/通いにくい」ことへの割合が高いことが特徴である。

自身または家族が介護・福祉サービスを受けている人を母数としている（避難先別）	全体	施設が少なくサービスが受けられない	設備が整っていない	職員が少ない(足りていない)	遠くまで通う事になった・通いにくい	利用し慣れた施設・事業所がない	その他	特にない	無回答	困っていることがある（計）
全体	723	7.6%	4.6%	5.1%	14.9%	9.7%	7.2%	51.6%	12.7%	35.7%
いわき市	175	7.4%	6.3%	8.0%	15.4%	6.3%	5.7%	50.3%	13.7%	36.0%
郡山市	70	5.7%	5.7%	2.9%	17.1%	18.6%	8.6%	38.6%	14.3%	47.1%
福島市	52	5.8%	1.9%	5.8%	9.6%	7.7%	5.8%	57.7%	13.5%	28.8%
白河市	23	4.3%	—	4.3%	4.3%	13.0%	13.0%	65.2%	4.3%	30.4%
南相馬市	21	28.6%	—	19.0%	38.1%	14.3%	4.8%	42.9%	—	57.1%
会津若松市	12	33.3%	8.3%	—	—	—	—	33.3%	33.3%	33.3%
福島県内のその他の市町村	70	7.1%	1.4%	1.4%	14.3%	4.3%	1.4%	58.6%	15.7%	25.7%
埼玉県加須市	71	1.4%	2.8%	5.6%	11.3%	5.6%	4.2%	63.4%	11.3%	25.4%
茨城県つくば市	14	7.1%	—	—	35.7%	—	7.1%	21.4%	28.6%	50.0%
新潟県柏崎市	10	10.0%	—	—	—	—	—	80.0%	10.0%	10.0%
福島県外のその他の市町村	200	8.0%	6.0%	4.0%	15.5%	14.0%	11.0%	50.5%	10.5%	39.0%
無回答	5	—	20.0%	—	20.0%	20.0%	40.0%	40.0%	20.0%	40.0%
福島県内の市町村（計）	423	8.5%	4.3%	5.9%	14.9%	8.7%	5.7%	50.6%	13.5%	35.9%
福島県外の市町村（計）	295	6.4%	4.7%	4.1%	14.9%	10.8%	8.8%	53.2%	11.5%	35.3%

教育

○加須市が他の避難先の傾向よりも相対的に「困っていることがある」の割合が高い。具体的には、「通学に時間がかかる」、「環境変化による学習の遅れ」、「居住地不定で進路・学校選択が決められない」という課題を多く抱えている。

学校に通っている子供がいる人を母数としている(避難先別)	全体	子どもが不登校になった	通学に時間がかかるようになった	避難先の学校では施設が不足している	先生の学習指導・教育相談が不十分	環境の変化による学習の進捗の遅れ	避難している子どもたちに対する偏見	居住地不定で、進路が決められない	転校先の学校や友達に馴染めない	その他	特になし	無回答	困っていることがある(計)
全体	1325	3.1%	12.2%	2.8%	5.1%	13.1%	7.7%	22.7%	5.4%	2.8%	36.9%	23.5%	39.6%
いわき市	291	4.8%	14.8%	6.5%	5.8%	11.7%	12.0%	19.2%	5.5%	2.1%	36.4%	25.1%	38.5%
郡山市	108	0.9%	7.4%	5.6%	1.9%	4.6%	10.2%	14.8%	3.7%	6.5%	34.3%	32.4%	33.3%
福島市	92	—	7.6%	2.2%	1.1%	5.4%	1.1%	13.0%	2.2%	4.3%	47.8%	25.0%	27.2%
白河市	45	2.2%	15.6%	4.4%	4.4%	11.1%	13.3%	17.8%	6.7%	2.2%	33.3%	24.4%	42.2%
南相馬市	19	—	5.3%	—	—	—	—	15.8%	—	—	57.9%	26.3%	15.8%
会津若松市	24	—	8.3%	—	—	4.2%	—	8.3%	—	4.2%	37.5%	41.7%	20.8%
福島県内のその他の市町村	107	4.7%	8.4%	4.7%	3.7%	11.2%	7.5%	29.9%	8.4%	1.9%	39.3%	21.5%	39.3%
埼玉県加須市	177	3.4%	22.6%	0.6%	10.2%	21.5%	11.3%	32.2%	6.2%	4.0%	18.1%	23.7%	58.2%
茨城県つくば市	29	3.4%	6.9%	—	—	13.8%	20.7%	17.2%	—	3.4%	48.3%	20.7%	31.0%
新潟県柏崎市	32	3.1%	12.5%	—	6.3%	9.4%	—	21.9%	3.1%	3.1%	43.8%	15.6%	40.6%
福島県外のその他の市町村	381	3.1%	10.0%	0.5%	5.5%	17.3%	3.9%	26.8%	6.8%	1.8%	41.7%	17.3%	40.9%
無回答	20	—	—	—	—	5.0%	—	5.0%	—	—	30.0%	60.0%	10.0%
福島県内の市町村(計)	686	3.1%	11.2%	5.0%	3.8%	9.0%	8.9%	18.8%	5.0%	3.1%	38.5%	26.2%	35.3%
福島県外の市町村(計)	619	3.2%	13.6%	0.5%	6.6%	17.9%	6.6%	27.6%	6.1%	2.6%	35.4%	19.2%	45.4%

地域コミュニティ

○どの避難先でも総じて「困っていることがある」の割合は高く、「双葉町民との集まる機会が少ない」ことが多い。「避難先住民との交流が少ない」ことへの意見も多いが、つくば市と柏崎市での割合は相対的に低い。

避難先別 (中高生以外)	全体	地域の人、友達と集まる機会が少ない	避難先の地域住民との交流が少ない	困り事を相談できる人が近くにいない	その他	特にない	無回答	困っていることがある(計)
全体	3498	65.6%	42.3%	23.0%	2.2%	22.0%	4.4%	73.5%
いわき市	736	67.0%	44.8%	23.8%	3.0%	19.8%	4.6%	75.5%
郡山市	375	65.9%	48.5%	21.3%	2.1%	19.7%	5.1%	75.2%
福島市	244	65.2%	33.6%	18.4%	3.7%	24.2%	3.7%	72.1%
白河市	136	60.3%	38.2%	19.9%	2.2%	26.5%	4.4%	69.1%
南相馬市	76	76.3%	56.6%	25.0%	1.3%	11.8%	2.6%	85.5%
会津若松市	61	65.6%	47.5%	29.5%	—	16.4%	11.5%	72.1%
福島県内のその他の市町村	290	65.9%	42.1%	24.8%	2.4%	20.7%	3.4%	75.9%
埼玉県加須市	352	65.3%	36.9%	18.2%	1.1%	21.3%	5.7%	73.0%
茨城県つくば市	88	56.8%	28.4%	13.6%	4.5%	30.7%	5.7%	63.6%
新潟県柏崎市	57	52.6%	28.1%	19.3%	3.5%	29.8%	7.0%	63.2%
福島県外のその他の市町村	1052	66.5%	43.9%	26.1%	1.5%	24.2%	2.8%	73.0%
無回答	31	45.2%	19.4%	19.4%	—	9.7%	32.3%	58.1%
福島県内の市町村(計)	1918	66.2%	43.8%	22.7%	2.6%	20.5%	4.5%	74.9%
福島県外の市町村(計)	1549	65.2%	40.9%	23.4%	1.7%	24.1%	3.7%	72.1%

仕事

○どの避難先でも総じて「困っていることがある」割合は高い。

その中で、いわき市は「職場が遠くなった」，加須市では「長期雇用が保障されない」ことへの意見の割合が高い。

また、白河市と加須市において「居住地不定で仕事が固めきれない」との意見の割合が相対的に高い。

避難先別 (中高生以外)	全体	希望する仕事がない	職場が遠くなった	震災前と違う職場であり、慣れない	給与が減った	長期雇用が保障されない	職場の人の目が気になる	仕事のために家族の別居生活が生じた	居住地不定のため仕事を固めきれない	仕事が減った	その他	特にない	就労する必要がない	無回答	困っていることがある(計)
全体	3498	10.3%	11.5%	5.4%	12.1%	7.6%	6.9%	14.3%	16.6%	4.2%	4.3%	19.5%	17.3%	15%	48.4%
いわき市	736	9.1%	24.5%	5.0%	17.4%	9.2%	10.1%	14.3%	12.8%	6.8%	4.6%	13.2%	15.1%	17%	55.0%
郡山市	375	11.5%	10.4%	6.4%	8.0%	7.2%	6.4%	15.7%	20.0%	4.0%	2.1%	20.3%	17.3%	16%	46.4%
福島市	244	10.7%	7.4%	2.0%	8.2%	5.3%	4.9%	15.2%	16.4%	1.6%	3.7%	22.1%	18.9%	13%	46.3%
白河市	136	16.2%	2.2%	3.7%	7.4%	5.1%	5.9%	3.7%	26.5%	1.5%	1.5%	19.9%	19.1%	18%	43.4%
南相馬市	76	7.9%	13.2%	2.6%	14.5%	3.9%	1.3%	23.7%	6.6%	9.2%	3.9%	27.6%	11.8%	11%	50.0%
会津若松市	61	6.6%	4.9%	1.6%	14.8%	—	8.2%	13.1%	14.8%	3.3%	3.3%	19.7%	14.8%	25%	41.0%
福島県内のその他の市町村	290	7.2%	11.0%	6.2%	10.7%	5.5%	5.5%	18.6%	14.5%	2.8%	2.4%	22.8%	17.6%	16%	43.8%
埼玉県加須市	352	11.4%	6.3%	7.1%	10.2%	13.9%	6.8%	17.6%	23.3%	3.4%	8.2%	15.6%	14.2%	16%	54.3%
茨城県つくば市	88	13.6%	4.5%	4.5%	5.7%	8.0%	5.7%	5.7%	15.9%	—	2.3%	25.0%	20.5%	19%	35.2%
新潟県柏崎市	57	17.5%	8.8%	5.3%	19.3%	14.0%	3.5%	10.5%	15.8%	7.0%	5.3%	19.3%	12.3%	12%	56.1%
福島県内のその他の市町村	1052	10.4%	8.0%	6.1%	12.3%	6.4%	6.8%	13.2%	16.4%	4.1%	4.5%	22.5%	19.9%	11%	46.4%
無回答	31	6.5%	6.5%	—	9.7%	3.2%	—	9.7%	9.7%	—	9.7%	9.7%	12.9%	42%	35.5%
福島県内の市町村(計)	1918	9.9%	14.9%	4.8%	12.5%	7.0%	7.3%	14.9%	15.7%	4.6%	3.4%	18.4%	16.5%	16%	49.1%
福島県外の市町村(計)	1549	11.0%	7.4%	6.2%	11.7%	8.5%	6.6%	13.7%	17.9%	3.8%	5.2%	21.0%	18.3%	13%	47.9%